



2021年3月 VOL.60

シティズンシップ教育の視点で 授業の見直しを

～自ら考え、判断し、行動する力をもった子どもを育てるために～



静岡県教職員組合立教育研究所
シティズンシップ教育研究委員会

シティズンシップ教育研究委員会では、シティズンシップ教育を「国や社会の出来事や問題を『自分事』として捉え、相手の立場や多様性を尊重しつつ、自ら考え、判断し、行動する力を育てる教育」として研究をすすめています。

2020年度の研究実践の中から、子どもたちが地域施設の活用について考えた実践を紹介します。

地域のためにできること『くすのき』の利用者を増やすためにはどうしたらいいか 小学校6年 社会科

御殿場市立神山小学校 杉山 弓月

<単元の目標>

- ・ 神山地区生涯学習センターの開所の経緯に関心をもち、地域の方々の思いを知ったり、市長や市役所が深く関わっていることに気付いたりしながら、市議会や税金の働きなどを理解する。
- ・ 自分たちにできることはないかと考える活動を通して、地域の方々や御殿場市の思いを受けて、地域の一員として考えようとする。

<教材について>

子どもたちが卒園した神山幼稚園が2019年度末を持って閉園することになったが、神山地区の方々の想いにより、生涯学習センター『くすのき』に形を変えて、残すことになった。地域住民の声が市政に伝わった事例であり「国や地方公共団体の政治のとりくみ」の目標である国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしている。政策の内容や計画から実施までの過程、法令と予算の関わりについても十分に学習できると考えた。また、シティズンシップ教育の視点からも考えられると思い、教材として選んだ。

子どもたちは、市役所からの資料で『くすのき』が完成するまでの政治の流れについて学習するとともに、市長や区長の思いを知り、自分たちが地域の一員としてできることがないかと考え始めた。

<実践内容>



『くすのき』の利用者を増やす方法の検討

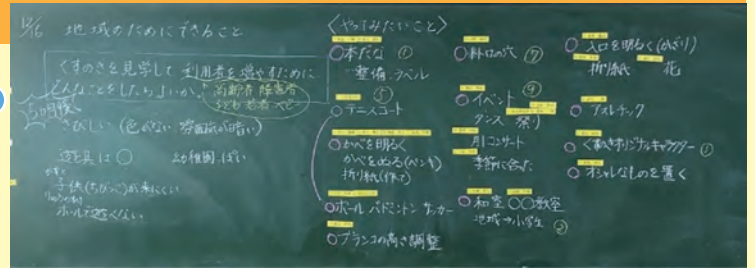
地域の原住いどくすのき	新聞	ホームページ	どんな内容のポスターを作る
くすのき利用者が増えるために わたしに伝えたいことは何があるか。	他の人に伝えてもらう	① どう作る YouTube ポスターの下にURL QRコード	写真 地図 図解の紹介
ポスター	ポスターを配る	ラジオ	外で運動できるアピル 営業時間
有名な場所には よく通る場所へ貼る	500円(30秒)	イベント	車球する、遊具 赤らぬへ小学生で たれでも 教室の紹介
目につくように貼る	静岡のCM		
簡単に見られる			

- A: ポスターを作って有名な場所に貼れば、ここがいい場所と教えられると思う。
- B: ぼくも有名な場所やレストラン、掲示板とかに貼ってもらえれば、もっと来ると思う。
- C: みんなが良く通る場所に貼って、みんなが行くようにする。
- D: 人が見ることはもちろん、低学年の子や各家庭に1枚ずつ配るとわかると思う。

小さい子から大人まで誰でも気軽に行けることや開かれている教室を紹介するポスター作りをした。

5か月後の『くすのき』の様子を見て

- ・さびしい感じがする。
- ・雰囲気が暗い。
- ・遊具はいいが、幼稚園感が強い。
- ・小学生が遊びに行きにくい。
- ・ボールがない。



子どもたちは「どうにかしてもっとくすのきを活性化したい」と施設の中をぐるぐると回り、地域の人たちが利用したいと思うような施設にしようと考えている姿があった。

自分事



活動紹介 【ドックランチーム】

このチームは、人だけではなく、犬も楽しめる施設にしたらどうかと考えた。その背景には、自分たちも含め、地域には犬を飼っている人が多いが、ドックランのような施設がないことに着目した。そこから4人で意見を出し合い、実際に何を置くのかを図で表していた。

新しい提案でドックランチームに
ハウスや室内遊び場や休憩場所を考
えそれが採用されるのかこれから大に
楽しめると考えている提案は、たの
み口からは、はなれたいけど、いい場所
ななと思いましたが、
このくらい根拠が大切で、この
ことを考えて、より良いものを提案
しよう。

新しく、ドックランを新しく入れる事にした。新しいドックラン
と、そこで遊ぶための準備として、何か準備するスペースとして
作り出す場所をどうしようかと考えた。その中で、どうするかは選
ばずとも、準備をちゃんとしてまた、ほかのチームと場所が分る
らうようにしたい。
赤らぬの池外で遊べ。
地域のいいの場になると
いいですね。

<成果>

- 利用者を増やしたいという区長さんの思いを「自分事」として企画を考えることができた。
- 利用する様々な人の立場に立って考えることができた。
- 施設の活性化に向け、みんなの思いを実現しようと活動に参加した。

生涯学習センター『くすのき』を教材にしたことで、地域で起きている問題を「自分事」として考える子どもが大勢いた。お年寄りから赤ちゃんのことまで考えないと、地域を動かすのは難しいということも実感することができ、相手を大切にする意識が生まれた。また、現状を客観視し、自分の地域の強みを生かそうとしている姿があった。

一方、地域の一員として考える貴重な経験となったものの『くすのき』に対する思いの差が課題である。

静教組立教育研究所が考える「シティズンシップ教育」

静教組立教育研究所では、2018年にシティズンシップ教育研究委員会を立ち上げました。シティズンシップ教育を「**国や社会の出来事や問題を「自分事」として捉え、相手の立場や多様性を尊重しつつ、自ら考え、判断し、行動する力を育てる教育**」として研究をすすめています。

シティズンシップ教育と聞くと、主権者教育が思い浮かぶかもしれませんが。シティズンシップ教育のねらいは、**民主主義、平和、人権が価値とされる市民社会を創る主役であり、担い手である市民を育てる**ことなので、主権者教育は、シティズンシップ教育の一部であると考えています。

これまでの研究で、**教材の内容そのものがシティズンシップ教育となるものと学び方の工夫によってシティズンシップ教育につながるものの2種類**があると整理しました。生活科や総合的な学習の時間に地域の学習をすることや、社会科で政治のしくみ等を学ぶことは、内容のシティズンシップ教育と言えます。また、課題を「自分事」と捉え、意見を出し合い、解決に向けてとりくんでいく国語科や特別活動は、学び方によるシティズンシップ教育と言えます。総合的な学習の時間で扱う内容によっては、内容と学び方の両方に関わることもあります。

シティズンシップ教育は、様々な教科・領域において実践することができ、横断的なとりくみを行うこともできます。新しく始めるのではなく、これまでの授業をシティズンシップ教育の視点で捉え直すことがシティズンシップ教育の実践につながっていきます。

シティズンシップ教育研究委員会 (2020年度)

共同研究者

井柳 美紀
(静岡大学 教授)
三浦 哲司
(名古屋市立大学 准教授)

所 員

高橋 雄太 (浜松教組)
水谷 仁直 (田方支部)
岩谷 佑紀 (三島支部)
杉山 弓月 (駿東支部)
青谷 安芸 (志太支部)
塩澤 耕平 (小笠支部)
生熊 佳奈 (湖西支部)

シティズンシップ教育の視点で授業の見直しを

～自ら考え、判断し、行動する力をもった子どもを育てるために～

編集・発行/静岡県教職員組合立教育研究所「シティズンシップ教育研究委員会」

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1番12号 静岡県教育会館

発行者/教育研究所運営委員長 赤池浩章

発行日/2021年3月

静岡県教育事業団体連絡会
教育と生活をサポート



一般財団法人 静岡県教職員互助組合



STC 静岡県教職員生活協同組合



STC 静岡県学校生活協同組合連合会



一般社団法人 静岡県出版文化会



公益財団法人 日本教育公務員弘済会静岡支部



株式会社 静岡教育出版社